
P29-03 当院退院時と退院 1 ヶ月後の動作能力の変化について —運動 FIM 短縮版を用いて—

大場 潤一郎¹、早川 万紀子¹、吉田 直樹²、松本 憲二¹、坂本 知三郎¹
¹関西リハビリテーション病院、²リハビリテーション科学総合研究所

【はじめに】リハビリテーションでより重要なのは入院中ではなく退院後の生活なので、入院中のリハビリテーションの実施に際しても退院後の対象者の機能の変化を見据えておく事が大切である。そのための情報を得ることを目的に、当院を退院した患者に対して、退院直前とその 1 ヶ月後の動作能力を計測したので、その結果を報告する。【方法と対象】対象は、2015 年 1 月から 1 年間に当院退院後、当院の所在する豊中市に在宅転帰された 75 名(平均年齢 72.9±18.0 歳)。疾患の内訳は脳血管疾患 31 名、骨関節疾患 19 名、脊椎疾患 20 名、その他 5 名(廃用症候群 3、外傷性脳損傷 2)であった。当院療法士が退院後約 1 ヶ月に対象者の自宅を訪問し、運動 FIM 短縮版を使用して動作能力を評価した。【結果】1 ヶ月後の評価での FIM 得点が向上/不変/低下した人数をこの順で示す。全体では 29/28/18、脳血管疾患では 13/ 12/6 名、骨関節疾患では 7/7/5 名、脊椎疾患では 7/8/5 名、その他 1/2/2 名だった。【考察】疾患によって退院後の身体機能の経過には違いがあると考えられるが、今回の対象者では、どの疾患でも FIM 得点の向上・不変・低下の比率はほぼ同一であった。これが偶然でなければ、身体機能以外の要因が影響していることが考えられる。特に、どの疾患でも 1/3 以上の対象者は FIM が向上しているので、今後はその要因について検討していきたい。